

○安心してお薬を服用（使用）していただくために

患者さんに、お薬を安心して服用（使用）して頂けるようにスタッフ一同努めております。現在、薬剤科のスタッフは、薬剤師9名、薬剤助手1名で業務を24時間体制で行っておりますので、疑問点や不安などあればいつでも気軽にお声をかけてください。



☆薬剤科の業務☆

調剤業務・・・薬剤師の立場から、飲み合わせの悪い薬や効果の同じ薬が処方されていないかなど処方箋の記載内容を確認し、調剤を行います。少しでも疑問があれば必ず処方医に照会しております。調剤後、患者さんには服用（使用）する上で必要な情報を提供しております。

注射業務・・・調剤と同様に注射せんの内容を確認し、患者別に取り揃えをしております。

病棟業務・・・入院患者さんとお会いして、薬についての情報を提供したり、副作用が出ていないかなどチェックしたりしています。また、病棟では医師や看護師などと連携をとりながら、患者さんに使われる薬の相談もしております。

がん化学療法・・・抗がん剤レジメオーダーシステムにより、安全に治療を受けて頂けるように取り組んでおります。

医薬品情報・・・医薬品の新しい情報の収集を行い、医師や看護師などに提供をしております。また、医師・看護師などからの医薬品に関する問い合わせの対応も行ってまいります。



調剤業務



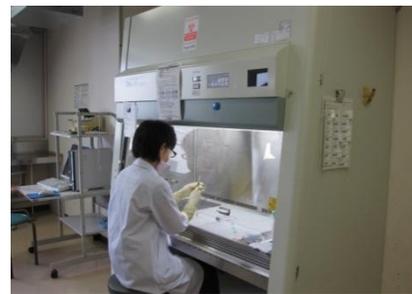
秤量監査システムにて、散剤の薬品・量が間違いなく行われたかを確認

注射業務



注射薬の患者別取り揃えの準備

がん化学療法



安全キャビネット内で薬剤師による抗がん剤の調整

○ぜひ今日の食卓に！

大豆の変わりごはん

材料（4人分）

米	… 2合
乾燥大豆	… 30g
かちりじゃこ	… 15g
人参	… 20g
姫ひじき	… 5g
(A)	酒 … 大さじ3
	砂糖 … 大さじ1
	濃口醤油 … 大さじ1と1/2
小麦粉	… 適宜
揚げ油	… 適宜

【1人分の栄養価】

エネルギー	… 355kcal
たんぱく質	… 9.3g
脂質	… 6g
塩分	… 1.3g
鉄	… 2.1mg
カルシウム	… 61mg
亜鉛	… 1.5mg

＜作り方＞

- ① 大豆は一晩水につけて、吸水させておいたものをザルに上げ、水気をふき取り、小麦粉をまぶす。（ビニール袋に入れて振る！）
 - ② 鍋に油を熱して、①の大豆をカラリと色よく揚げる。
 - ③ 別鍋に（A）の調味料を沸かし、かちりじゃこ2～3cmの千切りにした人参と、水にもどして水気をきった姫ひじきを加え、弱火で汁気がなくなるまで煮る。
 - ④ 炊きたてのご飯に③をよく混ぜる。
- できあがり



おすすめポイント！

大豆は、必須アミノ酸8種類すべて含まれ、植物性たんぱく質でありながら動物性たんぱく質によく似ていることから、「畑の肉」とも呼ばれる理想的なヘルシー食品です。この植物性たんぱく質は肥満の防止に大変効果的です。また、大豆の脂肪分には不飽和脂肪酸が多く、この脂肪酸は、コレステロール低下作用や抗血栓作用、抗動脈硬化作用などと血管を丈夫にする働きがあるので、生活習慣病予防にも効果が期待されます。

「食欲の秋」です。「大豆」を食べてみませんか？!

記事：栄養科 有澤 ゆかり



お悩み相談室

お悩み相談室の第5回目は、外科です。今回は、緩和ケアに関する疑問について外科 直木 一朗 医長に教えていただきます。

Q 『緩和ケア』とは何？

A がんになると様々な症状が出現します。痛みや倦怠感といった症状は約3/4の患者さんにみられますし、怒り・悲しみ・恐怖といった精神的な苦痛もみられます。『緩和ケア』とは、がん患者さんのこのような苦痛をとりのぞき、患者さんとご家族にとって自分らしい生活を送れるようにするための治療です。

Q 『緩和ケア』は、治療が不可能となった患者さんのための医療？

A 手術や抗癌剤治療などができなくなった患者さんや終末期を迎えた患者さんだけの医療

ではありません。がんが診断され治療が開始された段階から受ける医療と言えます。色々な苦痛を緩和することで、がんに取り組む気力や体力がわき、また治療効果も上がると考えられます。

Q 痛みがあれば麻薬を使うけど、中毒にはならない？

A 確かに『緩和ケア』では、がんの痛みに対して麻薬を使用します。医療用麻薬といいますが、痛みがある状態で使用すると中毒にはなりません。覚せい剤のように快楽を得るためのものでも依存症状を引き起こすものでもないですし、痛みが軽くなれば、減量や中止も可能です。